

飯田 知克 (いいだ・ともかつ)

1、プロフィール

師の教えである「継続しなさい」「たくさん作りなさい」「たくさんのお大会に出なさい」「自分の作品は大切にしなさい」を念頭に置き、俳人として多くの実績を積んだ。

<生没>

1945(昭和20)年12月11日 ~ 2020(令和2)年6月29日

<代表作>

俳句集『秋茄子』(平成25年5月15日発行)私家版

<青森との関わり>

昭和20年下北郡佐井村で生まれる。教職に就き、12年間むつ・下北の小学校、中学校の校長を務める。

2、作家解説

教職にあった時の、教え子、友人、教員仲間との「交友録」を、『ひと』、『ひと・人』、『ひと・人・ひと』と出版している。取り上げた人物をよく調査し、その人達の特徴を捉えた文章であると好評を得ている。

退職後、俳句会「かたかご」に入会し、会の主宰、畑中とほる氏に師事、氏の指導(多作・大会多参加・作品を大切に等)を謙虚に受け止め、多くの実作を試みた。

畑中氏は、飯田氏の人間像を、「探求心を持ち続け、解決、追求するという姿勢を崩さぬ、気概に富む気性の持ち主である。けれども時々発するユーモアに誰彼も頬がゆるむという、ほのぼのとした温かさに包まれた好人物」と分析している。

作風については、「詠む対象に謙虚に対峙していて、実直で澄み切った心が伝わってくる」「氏には曖昧さや危うさというものがない」「虚飾のない」と評している。

初めての俳句大会、「第 64 回青森県俳句大会（平成 22 年・東奥日報社主催）」で総合一位となり、そこで多くの支持があった俳句「潮騒の中や畑の秋茄子」から「秋茄子」を取り、以後、4冊の句集（『秋茄子』Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）を出版。

師の教えが功を奏し、投稿した同人句集、雑誌、新聞等に作品が多数掲載され、講評も載せられている。また、多くの大会で上位入賞を果たし、その実力は、敬意を持って迎えられた。

上記の賞（県俳句大会総合一位）以外の主な受賞歴は次のとおりである。

- ・毎日新聞俳句欄青森支局：年間最優秀賞「年間大賞」（平成 26 年）
- ・第 51 回子規顕彰全国俳句大会：特選賞（平成 28 年）
- ・第 31 回全国ねんりんピック富山 2018：準賞（平成 30 年）
- ・第 11 回青い森県民俳句大会：総合一位・県知事賞（平成 30 年）
- ・第 36 回奥の細道象潟全国俳句大会：秀逸賞（令和元年）

3、資料紹介

○『秋茄子』

図書

2013（平成 25）年 5 月 15 日

195mm × 140mm

俳句を作り始めてから、作品がどう転変してきたのか確かめる意味もあって、最初の三年間のものをまとめてみようと思った。それも、各年に作ったものは、そのまま手を加えず載せることとした。（著者のあとがきに記載）